

日本の歴史の中の『聖母像』



安土桃山時代 (1592)



江戸時代初期 (1620年代)



幕末 (1865)

喜びと悲しみを共にしつつ、16世紀から現代まで
日本の姿を見つめてきた数々の「聖母像」。
その御像の歩んだ数奇な物語と背景となった歴史を紹介します

- I 椿を持つ聖母＝右近の山里の「マリア十五玄義図」
- II 「親指のマリア」＝鎖国下での白石との出会い
- III 潜伏キリシタンと共に＝白磁の「マリア観音」
- IV 平和への使節＝浦上の「被爆マリア」



プロローグ-1

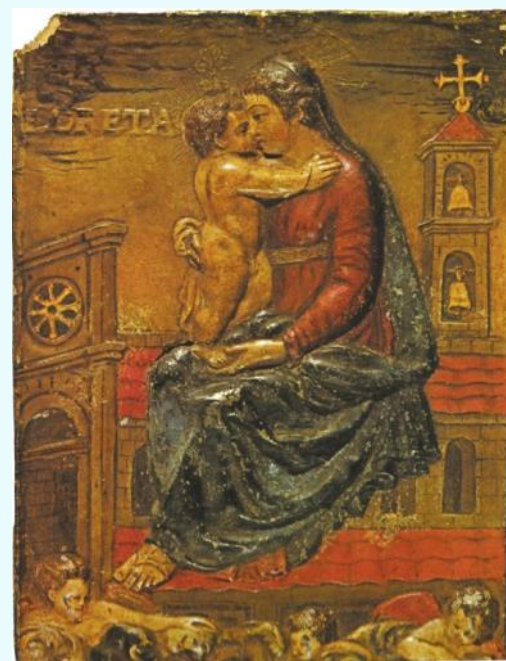
- ・ フランシスコザビエルの到着は、1549年8月15日聖母マリア被昇天の大祝日
- ・ ザビエルは、アンジローとの対話で「彼ら（日本人）は理性に基づかなければ（信仰に）導かれない人々」の認識を持っていた。
- ・ 一般庶民のキリスト教受容を容易にしたのは、地獄と極楽の来世観からの救済であった。
- ・ 改宗者は数珠や護符の信心用具に替わる聖画像やコンタス（ロザリオ）を強く求め、一度に五万枚もの聖画がヨーロッパに発注されたという。
- ・ 特に聖母の画像は、領主層の女性（薩摩藩主の母など）に感動を与え、庶民層では奇跡（壱岐での大火で画像が残った、有馬で少女の病が癒えた）の話も流布していた。
- ・ 布教初期（第1期・1549～1579）は画像輸入時代で、「聖ルカの聖母」等の画像が大量にもたらされが残っているものはきわめて少ない。



「聖母子」東京国立博物館蔵



「聖母子」東京国立博物館蔵



「ロレートの聖母」茨木市中谷家蔵



「聖ルカの聖母」のイコン

サンタマリア・マジョーレ大聖堂
パオリーナ礼拝堂祭壇
(聖ルカ作という伝説の聖母子のイ
コン、上部に雪の奇跡のレリーフが
ある)



ローマのジェズ教会内
イグナチオ・ロヨラの部屋



プロローグ-2

・布教中期（第2期の1579～1614）は、ヴァリニャーノにより日本人聖職者養成や画像制作、出版事業が盛んに行われ、また信徒は最新のカテキズム（「祝福されたる神の母処女マリアの無原罪」1546公会議など）を深く理解していたと思われる。1600年ごろ、旧暦の元旦を「マリアの祭日」にしたという。

・昨年11月横浜市歴史博物館「最古級の信仰画」と再評価された「ご聖体の連祷と黙想の図」（澤田美喜記念館蔵）は、日本人の筆による画文の個人用の巻物で、「御出世以来千五百九十二年 はうろ」の銘、「ロザリオの十五玄義」図とラテン語の祈禱文が仮名で記されている。

・禁教・迫害・潜伏期（第3期の1614～1873）に入っても、その初頭は、優れた日本画家による作品制作が続けられていた。これから紹介する「マリア十五玄義図」はその代表作として奇跡的に残された作品である。



「システィーナの聖母」
ラファエロ・サンティ
(1513～ 1514年頃 製作)

「ご聖体の連祷と黙想の図」

[illegible]

I 椿を持つ聖母＝右近の山里の「マリア十五玄義図」＝



原田家本「マリア十五玄義図」

高槻・茨木の奥座敷ともいべき千提寺と下音羽の山里は、キリシタン大名・高山右近が高槻城主だったところより明治維新まで高槻藩の隔領地だったといわれ、潜伏キリシタンが存在した可能性があったものの、禁教時代からの秘匿の守りは堅く、その確認はできなかった。

その後1919年（大正8年）、キリシタン研究家の藤波大超氏が 千提寺の山林（通称クルス山）でキリシタン墓碑を発見、その土地の地主の東家を尋ねたところ、「昔から秘密の物が伝えられている」ことがわかり、「あけずのひつ」の中から後に世界的に有名になった「ザビエル像」や「マリア十五玄義図」がなどの遺物が発見された。

さらに1930年（昭和5年）、下音羽の原田家からも屋根葺中、すすけた竹筒から完全な保存状態の「マリア十五玄義図」が見つかった。この椿を持つ聖母像である。

そして千提寺・下音羽のそのほかの家からも次々とキリシタン遺物が見つかったほか、80歳を越す三人の女性が最後の潜伏キリシタンとして、先祖から伝わった祈祷文や宗教儀礼を語ったといわれる。



掛軸に表装され、竹筒に入っていた

「墓碑」



高さ66.5cm 幅38cm

大正8年に、キリシタン遺物発見のきっかけとなった墓碑で、通称寺山で見つかった。光背型の形をしたもので、碑面には二支十字と「上野マリヤ」の名前が刻まれている。

(東家 蔵)



1919年（大正8年）、藤波大超氏が 千提寺の山林で東家のキリシタン墓碑を発見、その東家から「ザビエル像」（上）や「マリア十五玄義図」（右・東家本）がなどの遺物が発見された。





「マリア十五玄義図」（原田家本）上部。ポルトガル語の文字帯は「いとも尊き秘蹟ほめ尊まれ給え」
最上段は、左から「悲しみの玄義」の5場面



「マリア十五玄義図」（原田家本）下部。
 ポルトガル語の文字帯は「聖イグナティウス師／イエズス会士」＊「聖フランシスコ／ザビエル師」その下に「聖マティアス」「聖ルチア」を記されている。フランシスコ・ザビエルの列聖は1622年。この絵の制作年代がそのすぐ前か後かは、研究者により異なる。
 4人の聖人が仰ぐのはご聖体と聖杯。この作品には、ロザリオのマリアへの祈りと、聖体の秘跡への崇敬とが同居している。
 十五玄義は、左下の「受胎告知」から上の「エリザベト宅訪問」と、上から右へ、さらに下へ巡り、右下の「マリアの戴冠」で完結する。



浦上天主堂旧蔵の「マリア十五玄義図」

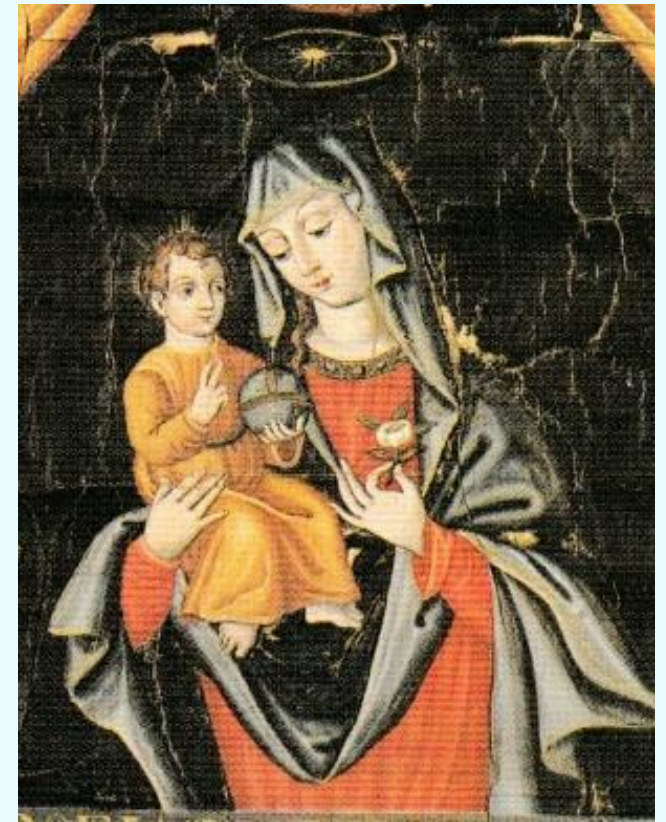
1945年に原爆で焼失したが、2011年ガラス乾板の一部が発見された。

三段目右から左へ、下・中・上段へと進む構成。

4段目は、右からアッシジのフランシスコ、パデュアパドヴァのアントニオス、洗礼者ヨハネとこと。



「マリア十五玄義図」 （原田家本）



トマ・ド・ルー刻・刊行
「ロザリオの聖母子」
（東京国立博物館蔵）

聖母はバラを、イエスはロザリオを持つ。
福井の旧家から発見された。



「マリア十五玄義図」 (原田家本)

イエスは地球（天球？）儀を持ち、「救世主としてのキリスト」を表わしている。

「救世主像」 東京大学総合図書館蔵
1597年「ヤコブ丹羽」作か



聖母は椿を持つ。

(↓「椿」紋)





調査の際、赤外線写真によって明らかになった下絵、日本人画家による繊細な筆の運びがみてとれる。
 左：聖霊降臨の弟子 右：被昇天のマリア

II 「親指のマリア」＝鎖国下での白石との出会い



カルロ・ドルチが描いた神々しいほどの悲しみが表現された美しい聖母像「親指の聖母」。

その画像を携えて、イタリア人教区司祭だったジョバンニ・シドッチは、1708年鎖国下禁教百年近くになる日本に潜入し、上陸した鹿児島で捕らわれ、江戸切支丹屋敷（山屋敷）に護送される。

この知らせをきいて幕府の重臣新井白石はシドッチの取り調べに当たった。

この逸材二人の出会いは、立場、信条の相違をふまえながらも、互いの尊敬と信頼に満ちたものであった。

カルロ・ドルチの作品



「悲しみの聖母」 1655年頃39歳の作
国立西洋美術館常設展示室にて 2003年撮影



「聖母子」
ローマ・ボルゲーゼ美術館にて 2016年撮影

カルロ・ドルチ（1616年～1686年）は、17世紀半ばのフィレンツェで活躍した宗教画家。
彼は子供の頃から敬虔な信仰の持ち主で、生涯聖ベネディクトゥス信者会に属していたという。

西洋紀聞上巻

寶永五年戊子十二月六日、西邸にて承り
しは、去八月、大隅國の海島に、番夷あり
て一人來り止まる、日本江戸長崎などいふ
事の外は、其言語きわきまふべからず、みづ
から紙上に數圖をしるして、ロウマ、ナンバン、
ロクソン、カステイラ、キリシタンなどさしい
ひ、ロウマといひし時には其身をゆびさせり、
此事長崎に注進す、阿蘭陀人にたづねとふ
に、ロウマといふは、西洋イタリヤの地名にて、
天主教化の主ある所也、ロクソン、カステイ
ラ等のときは、いかにも心得がたしといふ



その携持し袋にめれし所は、銅像、畫像、これに
供養すべき器具、法衣、念珠、此餘は、書凡ノ十
六冊、また錠のごとき金百八十一、彈のごくくな
る黄金百六十、我國元祿年製の金錠十八、我國
の錢七十六文、康熙錢三十一文等あり、その中、
書六冊は、つねに身に隨へて、手を停めずしてこれ
を誦ずといふ、(これらの物の形製等、つまびらかに
しるさむ事無用也、故にここに略す)

正徳五年乙未二月中澁筑後守從五位下源君美

此後、
其具、
黄金百六十、
我國元祿年製の金錠十八、
我國の錢七十六文、
康熙錢三十一文等あり、
その中、
書六冊は、
つねに身に隨へて、
手を停めずしてこれ
を誦ずといふ、
(これらの物の形製等、
つまびらかに
しるさむ事無用也、
故にここに略す)



異国人致所持候大袋之内諸色之覺 邏媽人疑狀ノニ
四角成びいどろ鏡の様成物壹 異国人に相尋候處、
さんたまりやと申宗門之本尊之由申候

此如きれにて戸張の様成物掛候て有之候



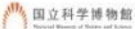
堅 壹尺
横 八寸五分

30.3X25.8
cm

但裏は皆木にて、
かねのくわん打有
之候。赤どんす
の袋に入候。

外廻り木 此内びいどろ下に繪有之候

白石はシドッチとの対話を「西洋紀聞」に著した。
白石の「武力侵略の恐れなし」との進言により、
シドッチは刑死を免れ「山屋敷」に二十両五人扶
持遇で囚禁されたが、後に彼の世話をする牢番夫
婦の長助とはるへの受洗が発覚、地下詰牢敵囚の
処分を受け、1714年11月27日牢死を遂げる。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

よみがえる 「シドッチ神父の遺骨の発見と復顔」

ハデレン

江戸の宣教師




Reconstruction of the last missionary in the Edo period.
Finding of the human skeletal remains and making face of Fr. Sidotti.

2016年 11/12(土) ▶ 12/4(日)

国立科学博物館 (東京・上野会場)
日本館1階中央ホール

■開館時間 / 午前9時～午後5時(金・土曜日は午後8時まで)
※入館は開館前日の30分前まで

■休館日 / 毎週月曜日

■入館料 / 一般・大学生820円(学生310円)
高校生以下および65歳以上無料 ※中学生20歳以上

■主催 / 国立科学博物館・文京区教育委員会

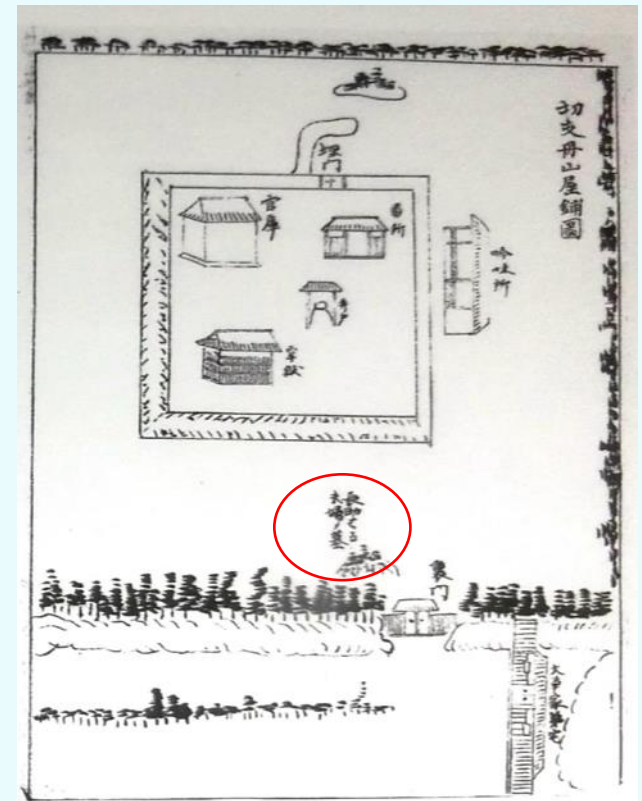




↑ 復元された顔

「切支丹山屋舗図」に記された長助はるの墓
この地点から三つの墓が発見された。
→

発掘された墓↓



シドッチ没後三百年の2014年。
切支丹屋敷跡の発掘調査が行われ、3つの墓から3体の人骨が発掘された。
そのうちの1体が、国立科学博物館のDNA分析によりイタリア人と判明。その顔も復元され、関連する歴史資料の調査もふまえ、シドッチ本人のものと推定された。

令和元年 7月6日(土)
13時～17時
定員600人[先着順]

※3歳以下無料

【会場】
上野大学図書館キヤンパス
10号館講堂
〒110-8301 東京都文京区上野 5-1
03-3826-2000

【申込方法】
① Web申込 (上野大学図書館サイト)
<https://tickets.jp/museum/>

② Web申込・電話・窓口 (各々)

③ Web申込・電話・窓口 (各々)

④ Web申込・電話・窓口 (各々)

⑤ Web申込・電話・窓口 (各々)

⑥ Web申込・電話・窓口 (各々)

⑦ Web申込・電話・窓口 (各々)

⑧ Web申込・電話・窓口 (各々)

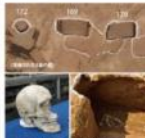
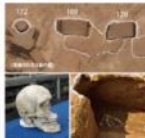
⑨ Web申込・電話・窓口 (各々)

⑩ Web申込・電話・窓口 (各々)

シドッチ神父の謎に迫る

Giovanni Battista Sidotti

2014年、文京区の切支丹屋敷跡から、キリシタン時代最後の宣教師シドッチ神父の墓が発見されました。彼の多いこの神父の本格的伝記の最新出版を記念して、シンポジウムを開催します。原著者のマリオ・トルネヴィアットの講演をはじめ、考古学、人類学、歴史学の専門家が多数登壇し、シドッチ神父の謎の解明に多角的に迫ります。

碑文谷教会（サレジオ教会、目黒区）の 聖堂が献堂された1954年、「親指のマリア」像が東京国立博物館で発見されたことにちなみ、この聖堂は、「江戸のサンタ・マリア」（親指の聖母）にささげられた。



碑文谷教会の小祭壇上にあるレプリカ。



江戸のサンタ・マリアにささぐ

内山善一 作詞
マルジャリア 霊父 作曲

Moderato

1. むらさきのひかりもあわく
2. まぼろしの おだまきの いと

まどのかうちいのりささぐーる
くりかえしむかしをいまーに

ひととききのしずけきこそろ
うかびみるとうときすかた

あゝ えど の サン タ マ リ ア
あゝ えど の サン タ マ リ ア

- 一、紫のひかりもあわく
窓のうち 祈りさ、ぐる
ひとときの しずけき心
あ、江戸のサンタマリア
- 二、まぼろしの おだ巻の糸
くりかえし 昔を今に
うかび見るとうとき姿
あ、江戸のサンタマリア
- 三、船の名はサントリニタス（聖三位）
渡り来る 伴天連シドツチ
山屋敷最後の客の
示しける サンタマリア
- 四、名にし負うカルロドルチの
筆という きよきかんばせ
おんなみだ 玉ととうとし
あ、磯上のサンタマリア

Ⅲ 潜伏キリシタンと共に＝白磁の「マリア観音」



鎖国になる頃、福建省から長崎の港に、白磁の慈母観音像がもたらされた。

その子を抱く姿に注目したのは、当時の中国での地域文化への適応を推し進めたイエズス会宣教師マテオ・リッチであった。

その白衣は、聖母の純潔を象徴し、幼子はイエスを表すとされ、「東アジア型聖母像」として、当時の潜伏キリシタンの霊的需要を満たしたという。（若桑みどり『聖母像の到来』）

宣教師のいない閉ざされたキリシタン共同体と各家々にも、その像は聖母子像として受け入れられ、祈りの対象とされた。

「迫害の中の7世代250年、キリシタンたちは、このような慈母観音像をマリアさまとして聖母マリアに祈り続けた。

それが1865年大浦天主堂における神父との出会いを実現する原動力となったのである。」

（大浦天主堂キリシタン資料館展示から）

マリアさま(マリア観音)

迫害の中の7世代250年、キリシタンたちはこのような慈母観音像をマリアさまとして聖母マリアに祈り続けた。それが1865年大浦天主堂における神父との出会いを実現する原動力となったのである。

The Virgin Mary (Statue of Mary portrayed as the Goddess of Mercy)

For 250 years (seven generations) of the persecution period, Christians continued praying before these Jibokannon statues, but thinking they were the Virgin Mary. This prayer made possible their future meeting with a priest at Oura church in 1865.

마리아 상 (마리아 관음)

박해 속의 7세대, 250년간 키리시탄들은 자비로운 어머니의 모습을 한 관음상을 성모님으로서 모시고 성모님께 계속 기도를 드렸다. 이것이 원동력이 되어 1865년 오우라 천주당에서 신부와의 만남이 실현될 수 있었던 것이다.





大浦天主堂キリシタン資料館にて 2015. 2. 27撮影





「マリア観音」とは

東京国立博物館には、白磁の観音像が37点収蔵されている。

いずれも、幕末と明治初期の長崎浦上のキリシタン大弾圧の際に、信徒から押収したキリシタン遺物で、聖母マリアと幼子イエスとして礼拝していた証拠と、その来歴を示すことから

「マリア観音」の名称が与えられる像である。

「マリア観音」という名は、キリスト教の聖母子像として礼拝対象の像のみに与えられ、その信仰や来歴が不明の場合は、「慈母観音像」「子安像」「子安観音像」と称すべきと思う。

東京国立博物館のマリア観音像

当館のマリア観音像は、長崎の浦上三番崩れ*と呼ばれる隠れキリシタン検挙の際、長崎奉行所が没収したものです。マリア観音像は、隠れキリシタンがカモフラージュのため特別に作ったものではなく、中国福建省の徳化窯で多く作られた一般的な観音像です。しかし隠れキリシタンはイエス・キリストを膝に抱く聖母マリア像として祈りを捧げました。

長崎奉行所による隠れキリシタン取り調べを記録した『異宗一件』（長崎歴史文化博物館）に、これらの観音像についての記載も見られます。C-600とC-660は浦上の隠れキリシタン組織の中で指導的役割を担っていた中之郷吉蔵が所有していたものです。この像について吉蔵は「先祖共より持伝え信仰いたし来候」と述べてしています。吉蔵は捕えられた翌年牢死しました。

*浦上の「崩れ」

長崎の浦上では18世紀末から19世紀の中頃にかけて隠れキリシタンが捕えられ、幕府による厳しく弾圧された事件が4件おきました。これらの事件を「一番崩れ（1790～）」、「二番崩れ（1839～）」、「三番崩れ（1856～）」、「四番崩れ（1867～）」と呼んでいます。



マリア観音像（東京国立博物館蔵）



明～清時代・17世紀 徳化窯



安政三年（1856）「浦上三番崩れ」の際、中之郷の帳方吉蔵（牢死）が所持していた「ハンタマルヤと申す白焼仏」（長崎奉行所押収品）↓



←観音像 清時代・17～18世紀
褐色蠟石製

長野県内の文化財指定の観音像

文化財名が「マリア観音」となっているものもあるが、必ずしも由来が明らかではない。

福昌寺
白磁観音像 →
(山ノ内町)



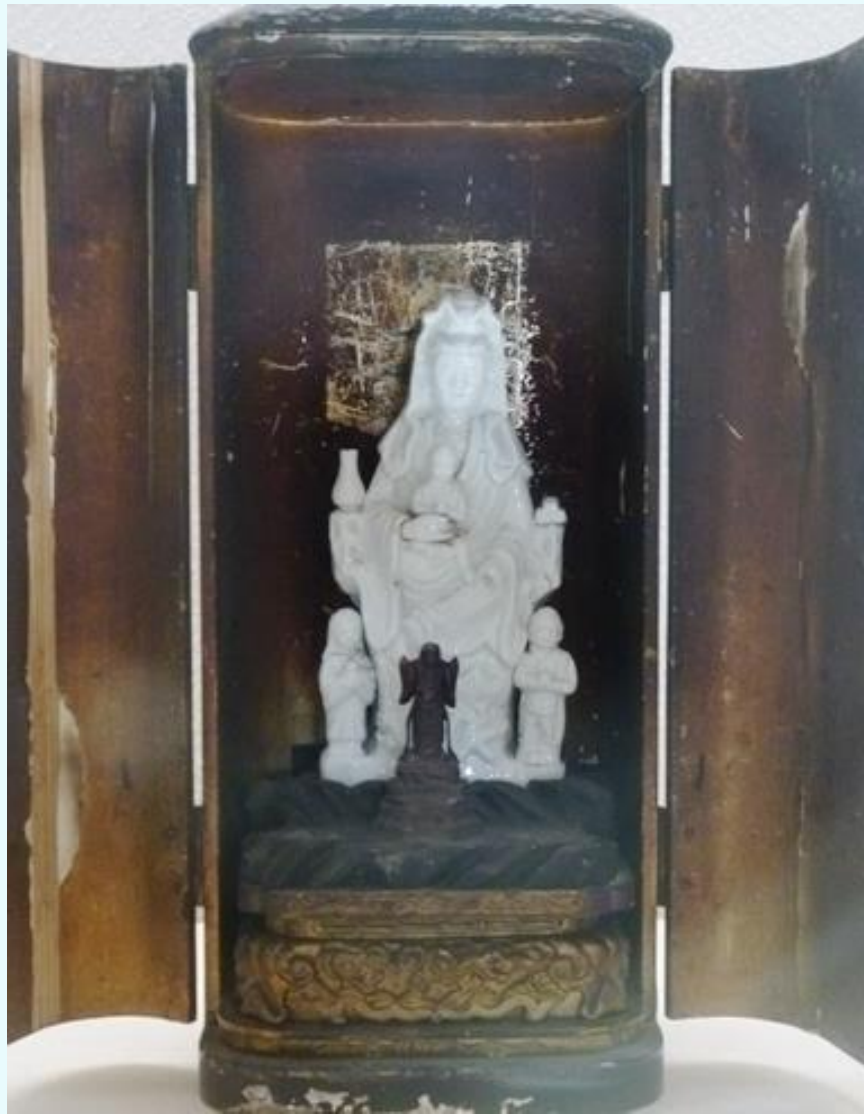
←
「白磁マリア観音半跏倚像」
(長野市松代町
旧松代藩海野家伝来)



↑ 旧見王寺 白磁観音像
(山ノ内町)

← 「マリア観音」 (富士見町)

「マリア観音」として文化財指定されている千葉県内の観音像



「白磁製マリア観音像」（大多喜町文化財）
大多喜博物館蔵 大多喜の行屋堂で1954年に発見（由来不明）



「木造マリア観音坐像」
（いすみ市文化財）
岬町和泉の飯縄寺蔵
（由来不明）

市町村などで文化財に指定されている「マリア観音」像は、長野県や千葉県その他全国各地にあるが、その来歴や潜伏キリシタンの存在が不明なものがほとんどである。

また、石仏でも、秩父の金昌寺の「子育観世音坐像」などの子安像塔を仮託礼拝物の「マリア観音」とする方々もおられるが、女人講の石仏の系統を丹念に調べれば、全くありえない説である。

千葉県袖ヶ浦市百目木の子安像塔



千葉県袖ヶ浦市の百目木の子安堂には、子を抱いた女人像が浮彫された元禄四年（1691）の「子安大明神」銘石祠が祀られている。

この百目木の「子安大明神」の石祠は、私が千葉県内の子安像石塔を悉皆調査した結果、千葉県で初出の子安像石塔であり、その後、千葉県内では、現代まで二千基以上の子安像石塔が建立されてきた。

百目木の子安堂で、注目すべきは、「子安大明神」石祠の傍らに、白磁の慈母観音像が祀られていたことであった。

江戸時代、17世紀後半から18世紀前半の「子安大明神」の石祠や「子安観音」の石仏などの子安像塔が生み出された背景には、①ムラに伝わる古来の子安神信仰と、②十九夜塔など石仏を彫る技術の伝統、そして、③輸入された慈母観音の特徴である「子を抱く像」への女性たちの共感という3つの要因があったと、私は考えている。

IV 平和への使節＝浦上の「被爆マリア」



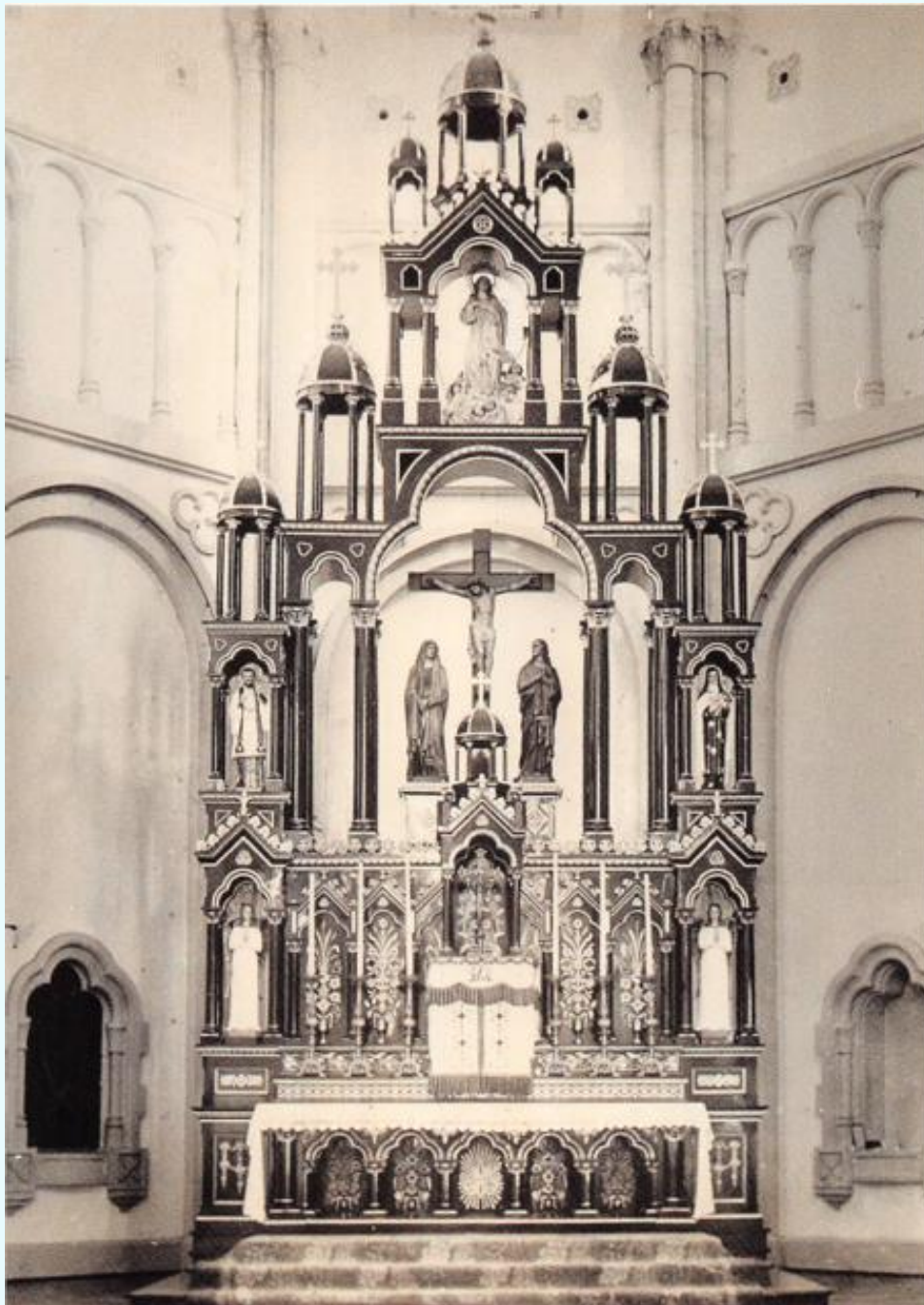
「浦上四番崩れ」は明治新政府により、浦上のキリシタン信徒が村ぐるみ流罪に処せられた事件。その「四番崩れ」で壊滅し、復興した町は、再び原爆でという「五番崩れ」で廃墟となった。

浦上への原爆投下から1週間後、人々は戦争の悲惨さと愚かさにとやっと気づき、奇しくも聖母被昇天の日、大戦は終結した。

その惨禍をじっと見ておられた「マリア像」がいま、浦上大聖堂右陣の小聖堂に祀られている。

被爆直後、復員した一神父の手によって廃墟から救い上げられ、その三十年後に浦上に戻されたマリア像。

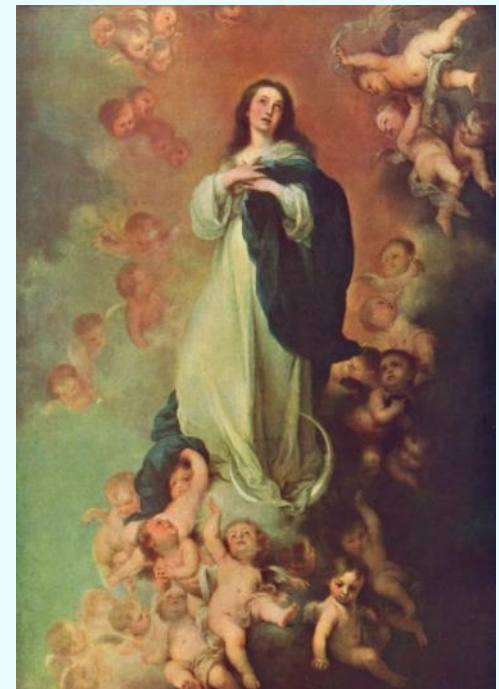
首から上だけ残るこの頭像は、今、「被爆マリア」と呼ばれ、平和への祈りの象徴となっている。



明治6年(1873) 荒野と化した浦上に流刑地から帰村した1883人の手で、浦上天主堂はその建設が計画され、明治28年(1895)着工、20年後の大正3年(1914)東洋一の煉瓦造のロマネスク様式の大聖堂が完成した。

木製の祭壇が聖堂に取付けられ、イタリアから送られた無原罪の聖母の像が奉られた。

ムリーリョの傑作「無原罪のお宿り」の絵画（マドリッドのプラド美術館に現存）をモデルに制作されたと伝えられている美しい像であった。





1945年8月9日、浦上天主堂の上空500mで原子爆弾が炸裂した。 一帯は猛火に包まれ地獄と化し、浦上に住んでいた12,000人の信者のうち、8,500人がその日に亡くなった。天主堂には、被昇天の祝日の準備のため信者24名と司祭2名がいたが、全員が即死、天主堂は深夜まで燃え続けたという。

その年の10月、一人の復員兵が浦上の廃墟を訪れる。長崎の出身で、北海道の修道院に帰院する途上の野口神父であった。

師が深い祈りを捧げている時、瓦礫の中から、真っ黒に焼け焦げた顔が、深い悲しみをたたえて自分をみつめていることに気付く。天主堂の祭壇に奉られていた聖母マリアのお顔であった。

野口師は、このマリア像を自室に安置して毎日祈っていたが、「このような聖なる物を私していることに後悔をおぼえ」、原爆三十周年の年、片岡弥吉氏の手を通じて浦上天主堂に返上した。

以上の話を、本で読んだ佐多保彦氏は1998年8月、浦上天主堂を訪ねた。氏は教会の原爆資料館展示ケースの「被爆マリア」の像に心を痛めた。

「プロパガンダは要らない。ただ静かに傷ついたお顔を堂々とお見せになられているだけでよい。人々はその前に跪き、各々の祈りを心に唱えることだろう。それは目に見えずとも、平和を訴える大きなパワーとなって浦上から世界へ流れ出てゆくに違いない。」

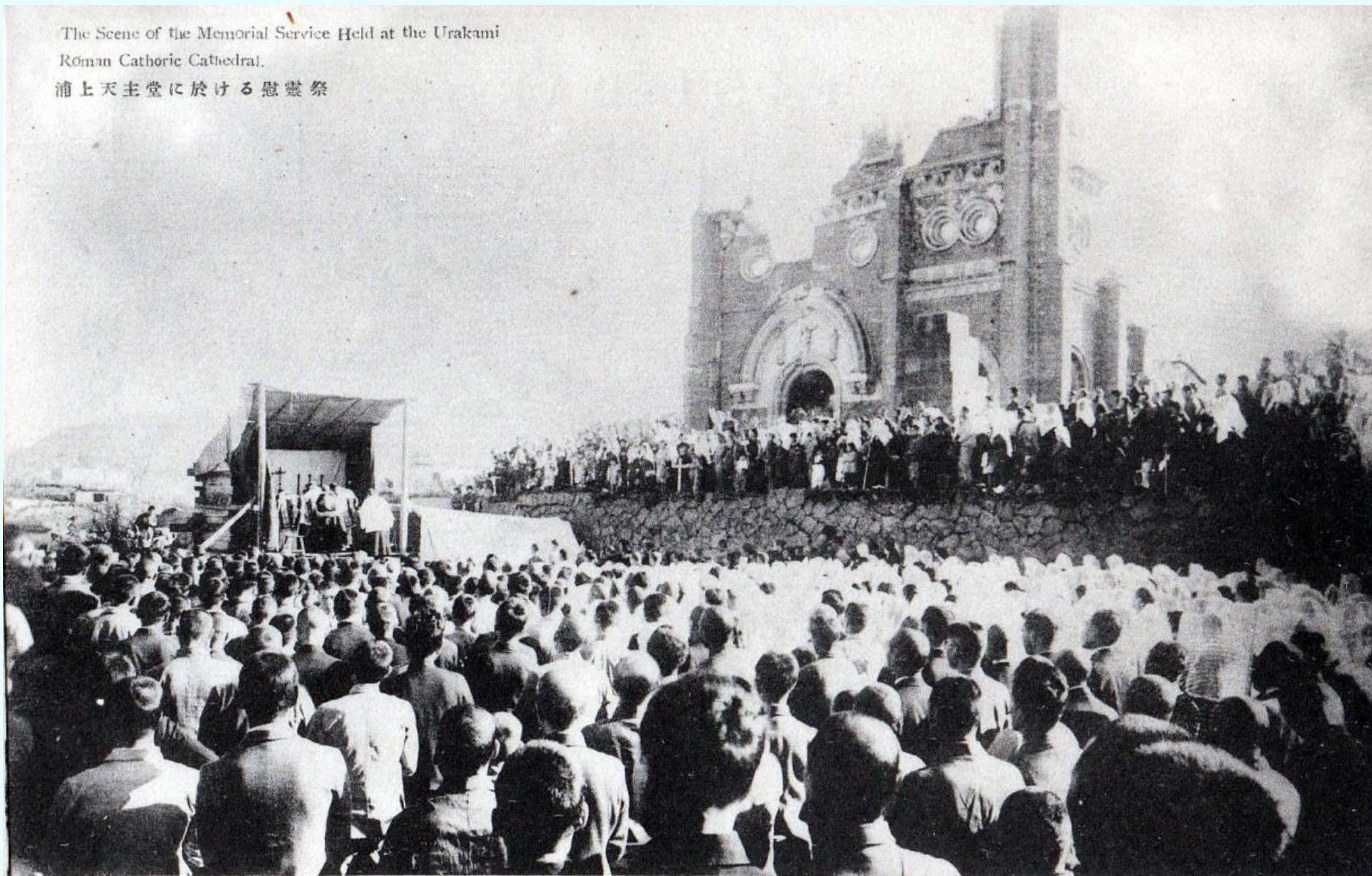
まずは、展示ケースから天主堂の祭壇に奉り、そしてこのマリア像を「世界遺産」にと、よびかけた。

私が浦上を訪ねた2000年8月9日、マリア像は祭壇に奉られ、原爆忌ミサに訪れたたくさんの人にそのお顔を見せていらした。



The Scene of the Memorial Service Held at the Urakami
Roman Catholic Cathedral.

浦上天主堂に於ける慰霊祭



天主堂に於ける慰霊祭（1945年11月23日）



1959年（昭和34年）に再建された
現在の浦上天主堂



手の指を失ったままたたずむ
「悲しみのマリア像」石像。



爆心地に残された天主堂の遺構



明治から着工された、天主堂の外の軒にはたくさんの天使や聖者の石像が飾られた。

石は天草石の粗末なもの、彫刻は天草の石仏師が、曲りなりにも刻み上げたもの。

これらの聖者像は、原爆の恐ろしさと同時に、明治期の石工の作品として、貴重な文化財でもある。

←旧天主堂の聖人・天使の石像

爆心地に残された天主堂遺構の上の聖像↓



原爆投下60周年の2005年8月9日午前10時30分、浦上天主堂の、新しく完成した堂内のチャペルに、被爆マリア像を安置する儀式が行われた。



世界中に平和を訴えて、「被爆マリア」の行脚は続く。
光を失った眼でご覧になったあの8月9日の惨状と人間の罪深さ。それを世界に訴えると共に、深い悲しみに沈む人々に希望を与えるため、とのこと。
今までもこれからも「聖母」が涙の谷に生きる者の慰めとしてあるかぎり…

